

Ⅲ 設問間クロス分析

同和問題について各調査項目の関係性を分析することで、今後の効果的な啓発に繋げていくためにクロス分析を行った。

1 インターネット上で同和問題に関する差別投稿を見た感想

【問 19-4×問 2-D 部落差別の解消の推進に関する法律の認知度別

インターネット上で同和問題に関する差別投稿を見た感想】

(%)

	n	とら人 思つ、権 問の た観 点か る	と関同 思わ和 つり問 たた題 くには ない	らほ れし たい と情 思報 つが た得	とど他興 思もの味 つ見書が たてきわ み込 いたみて いな	そ の 他	た何 も思 わな かつ	不 明・ 無 回 答
【D 部落差別の解消の推進に関する法律】								
どんな内容か知っている	13	84.6	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0
内容も多少は知っている	29	37.9	24.1	3.4	6.9	3.4	24.1	0.0
内容は知らないが、名前は聞いたことがある	33	54.5	24.2	9.1	6.1	0.0	18.2	0.0
知らない	45	51.1	24.4	2.2	8.9	2.2	13.3	4.4

【調査結果と分析】

部落差別解消法について「どんな内容か知っている」は、「人権の観点から、問題があると思った」が84.6%である。一方、「内容も多少は知っている」は37.9%、「内容は知らないが、名前は聞いたことがある」は54.5%、「知らない」は51.1%である。「内容も多少は知っている」は「何も思わなかった」が24.1%で他の場合より高い。

同法の内容を詳しく知っている場合と多少は知っている、又は知らない場合では、人権問題としての受け止め方が圧倒的に違う。加えて「内容も多少は知っている」場合は「知らない」場合より「人権の観点から、問題があると思った」の割合が低く、人権問題としての受け止め方が弱い傾向が伺える。

【問 19-4×問 19-3 同和問題に関する差別をインターネット上で見たきっかけ別
インターネット上で同和問題に関する差別投稿を見た感想】

(%)

	n	人権の観点から、問題があると思った	同和問題には、関わりたくないと思った	ほしい情報が得られなかった	興味がない、面白くない、見ても見えていない	その他	何も思わなかった	不明・無回答
見たきっかけ								
学校で同和問題について習ったので、調べていた	10	40.0	10.0	0.0	20.0	0.0	30.0	0.0
同和問題について理解を深めようと調べていた	19	78.9	15.8	5.3	5.3	0.0	5.3	0.0
同和地区がどこにあるのか、調べていた	11	45.5	45.5	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0
同和地区がどんなところか知りたくて、調べていた	8	62.5	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ある人物について、その人が同和地区出身者かどうか調べていた	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
知り合い等から、その投稿を見るように勧められた	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
同和問題と関係ないSNSやWEBサイトを閲覧しているうちに、たどり着いた	63	60.3	19.0	1.6	7.9	3.2	12.7	0.0
その他	7	42.9	0.0	14.3	0.0	0.0	42.9	0.0

【調査結果と分析】

「人権の観点から、問題があると思った」は、「同和問題について理解を深めようと調べていた」が78.9%、「同和地区がどんなところか知りたくて、調べていた」が62.5%、「知り合い等から、その投稿を見るように勧められた」が66.7%、「同和問題とは関係ない SNS や WEB サイトを閲覧しているうちに、たどり着いた」が60.3%となっている。

このことから、正しい知識を得ようとした場合は人権上の問題として受け止める割合が他の場合より高いが、身元調査などをした場合には差別意識が助長されているものと考えられる。

【問 19-4×問 20 同和問題に関する教育を受けた経験の有無別
インターネット上で同和問題に関する差別投稿を見た感想】

(%)

	n	人権の観点から、問題があると思った	同和問題には、関わりたくないと思った	ほしい情報が得られなかった	興味がない、面白くない、見ても見えていない	その他	何も思わなかった	不明・無回答
同和問題に関する教育を受けた経験								
受けたことがある	84	56.0	20.2	2.4	7.1	1.2	15.5	1.2
受けたことがない	18	55.6	22.2	0.0	0.0	5.6	16.7	5.6
よく覚えていない	18	27.8	38.9	16.7	11.1	0.0	22.2	0.0

【調査結果と分析】

学校で同和問題に関する教育を「受けたことがある」は、「人権の観点から、問題があると思った」が56.0%、「受けたことがない」は55.6%と明らかな差は見られない。また、「何も思わなかった」は「受けたことがある」では15.5%で「受けたことがない」場合は16.7%、その差は約1ポイント程度である。このことから、義務教育で同和問題を学習した場合としない場合での受け止め方に特に大きな差異は見られない。

インターネット上で同和問題に関する差別投稿を見た感想】

	n	人権の観点から、問題があると思った	同和問題には、関わりたくないと思った	ほしい情報が得られたと思った	興味なども見て、他の書き込みなど思った	その他	何も思わなかった	不明・無回答
同和問題（部落差別）の起源をどのように教わったか								
人種・民族の違う人達が集まってできた	5	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
宗教の違う人達が集まってできた	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
百姓や町人と違う職業の人達が集まってできた	17	64.7	17.6	11.8	0.0	0.0	11.8	0.0
生活の貧しい人達が集まってできた	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
中世の時代にケガレを清める人達への差別がもとでできた	8	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
江戸幕府が民衆を支配する手段として作った	31	51.6	22.6	0.0	6.5	0.0	16.1	3.2
その他	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
分からない	13	30.8	23.1	0.0	7.7	7.7	38.5	0.0

「中世の時代にケガレを清める人達への差別がもとでできた」は「人権の観点から、問題があると思った」が100.0%、他の場合は5~6割程度であることが大きな特徴であり、キヨメ説の啓発効果が高いことがうかがえる。

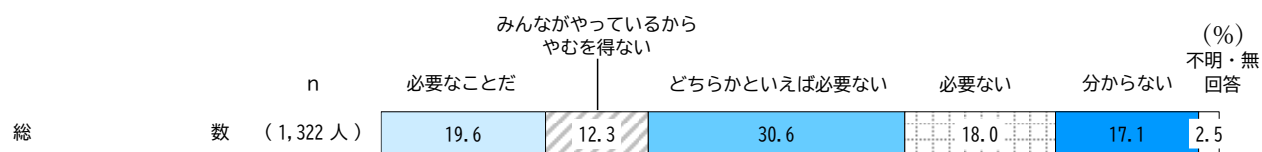
インターネット上で同和問題に関する差別投稿を見た感想

	n	人権の観点から、問題があると思った	同和問題には、関わりたくないと思った	ほしい情報が得られなかった	興味がいちど、他の書き込みなど、見たいと思った	その他	何も思わなかった	不明・無回答
〔A 講演会や研修会〕								
3回以上	6	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1～2回	18	77.8	5.6	5.6	0.0	0.0	11.1	0.0
0回	74	47.3	24.3	5.4	10.8	2.7	14.9	1.4

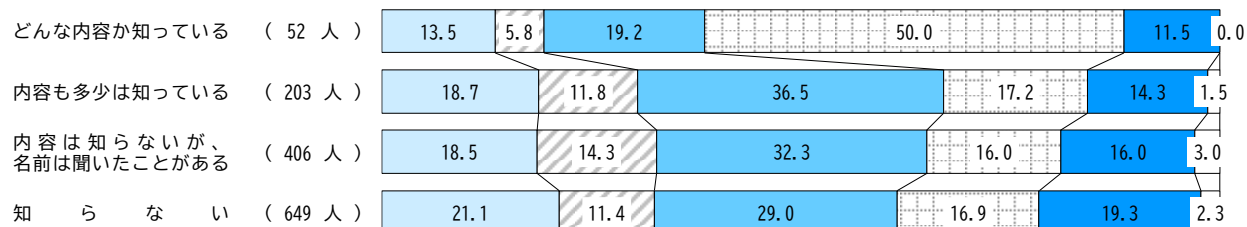
「3 回以上」は「人権の観点から、問題があると思った」が100.0%である。「1～2 回」は77.8%、「0 回」は47.3%である。参加回数が多いほど人権問題として受け止める意識が高く、参加回数と意識との間に相関関係がみられる。講演や研修会の内容にもよるが、参加したことで人権尊重の意識を自覚することにつながっているとも考えられる。

2 身元調査の必要性

【問 22×問 2-D 部落差別の解消の推進に関する法律の認知度別 身元調査の必要性】



【D 部落差別の解消の推進に関する法律】

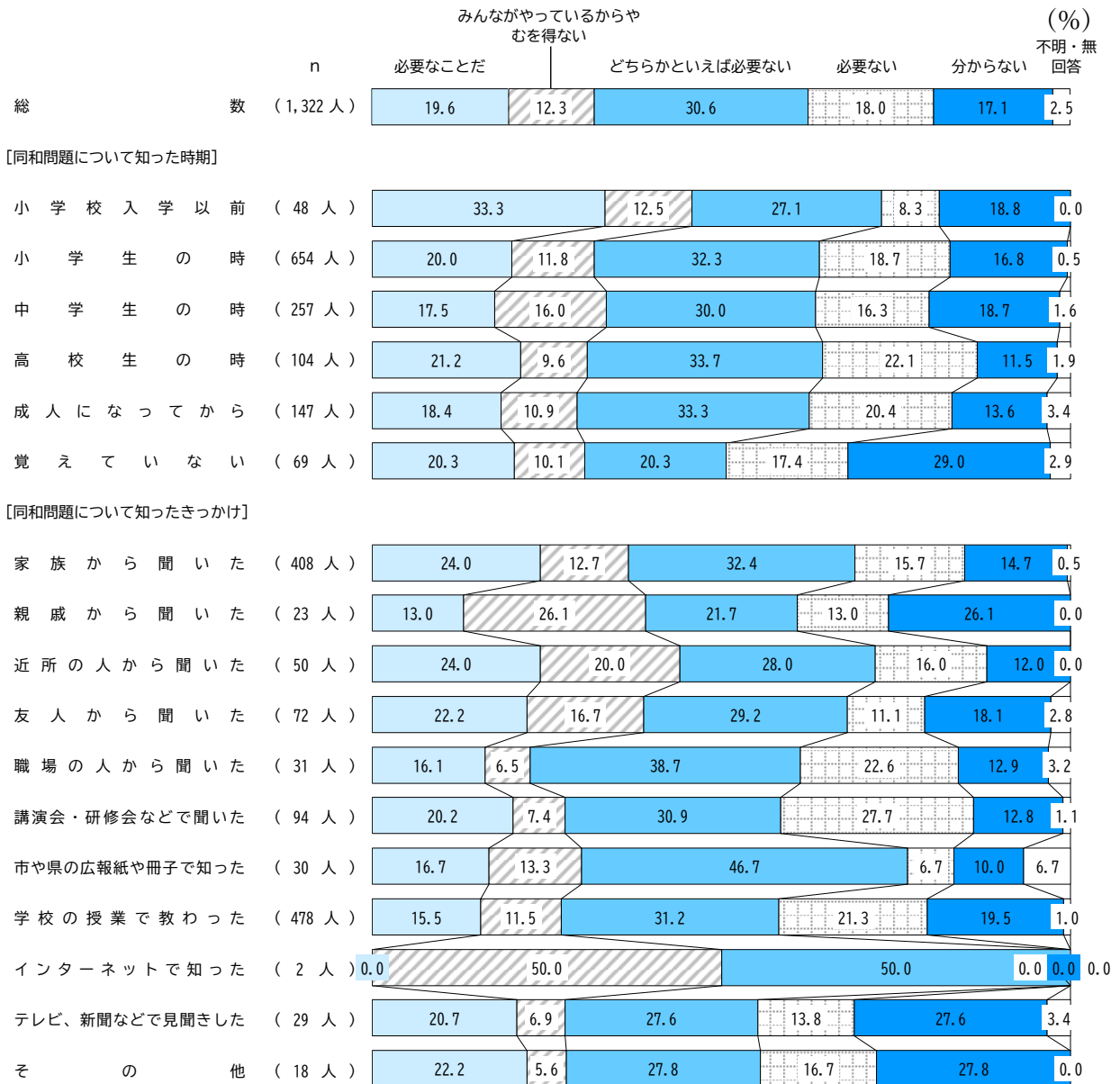


【調査結果と分析】

部落差別解消推進法について「どんな内容か知っている」は「必要ない」が 50.0%である。一方、「内容も多少は知っている」では 17.2%、「内容は知らないが、名前は聞いたことがある」では 16.0%、「知らない」は 16.9%といずれも 1 割台である。

同法の内容を詳しく知っている場合のみ身元調査を否定する意識が半数を占めて高いが、他の場合はいずれも 17%程度にとどまり明確な差がみられる。

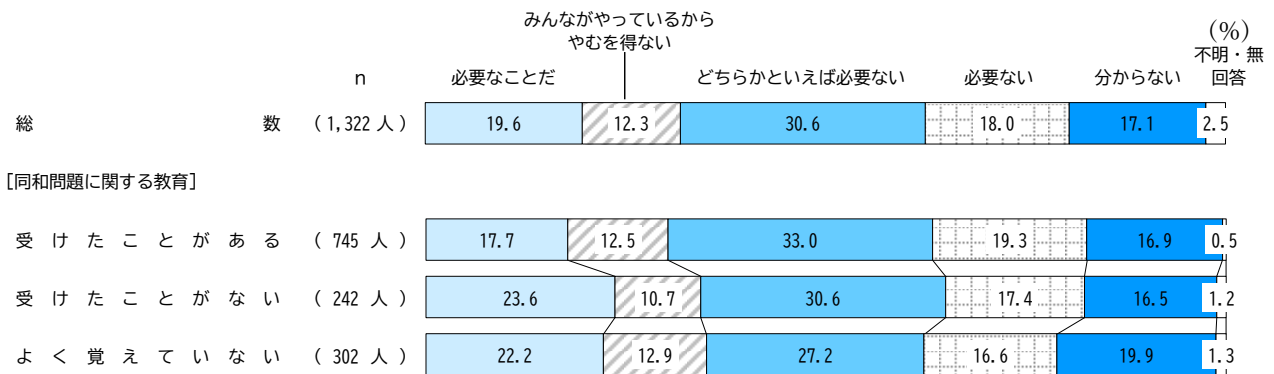
【問 22×問 17 同和問題の認知時期ときっかけ別 身元調査の必要性】



【調査結果と分析】

「高校生の時」に同和問題を知った場合は、身元調査を否定する意識が 55.8%（「必要ない」22.1% + 「どちらかといえば必要ない」33.7%）、「成人になってから」は 53.7% で他の場合より高い。就職や結婚などが身近な時期に同和問題を知ったので、同和問題を他人事でなく自分の問題として受け止めやすいのではないかとと思われる。「家族から聞いた」や「近所の人から聞いた」は、身元調査について「必要なことだ」がともに 24.0% で他の場合より高い。一方、「職場の人から聞いた」・「講演会・研修会などで聞いた」・「学校の授業で教わった」は、身元調査は「必要ない」がともに 2 割以上で他の場合より高い。特に「職場の人から聞いた」場合は否定的な意識が 61.3% で他の場合より特に高い。このことから、職場での研修などの啓発の効果が表れはじめたのではないかとと思われる。

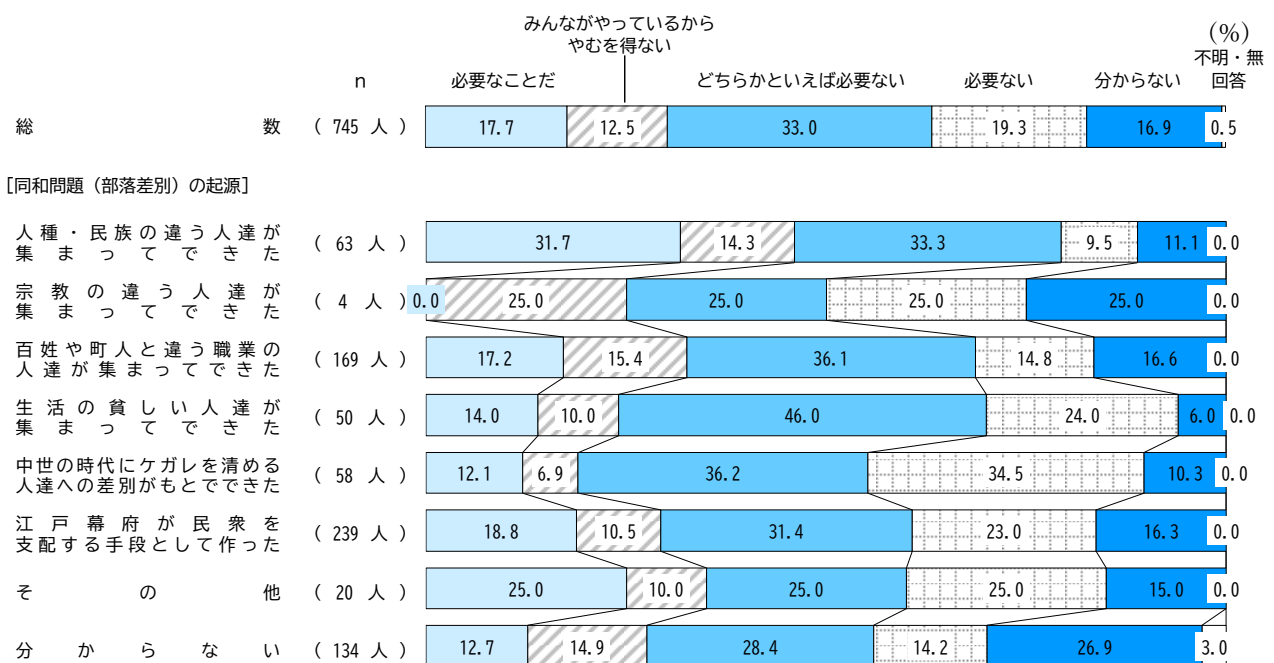
【問 22×問 20 同和問題に関する教育を受けた経験の有無別 身元調査の必要性】



【調査結果と分析】

「受けたことがある」は、身元調査に否定的な意識が 52.3%（「必要ない」19.3%+「どちらかといえば必要ない」33.0%）、「受けたことがない」場合は 48.0%で、受けた場合が約 4 ポイント高い。身元調査に関する否定的な意識は、同和問題の教育を受けた場合と受けていない場合を比較すると、その差はわずか約 4 ポイントであるが、「受けたことがある」が高い。

【問 22×問 20-2 同和問題に関する教育の内容別 身元調査の必要性】

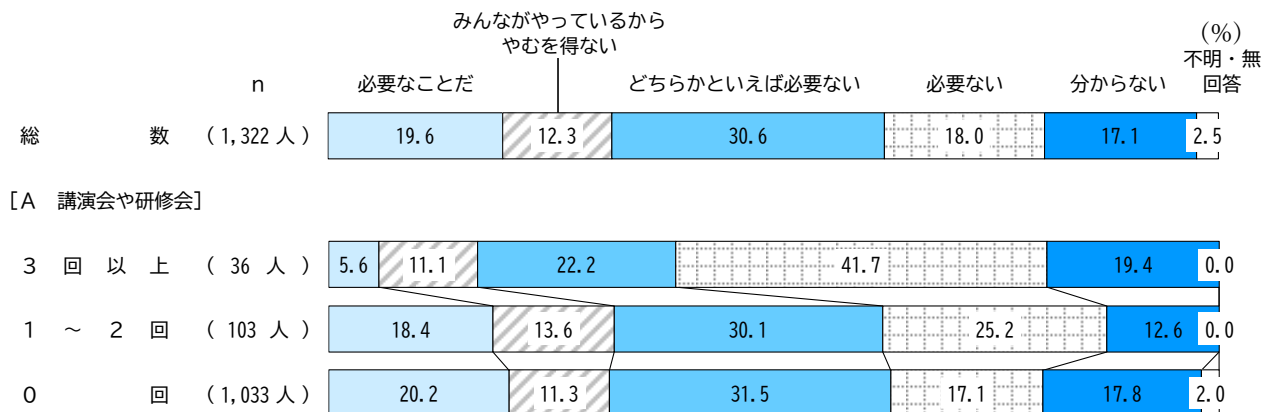


【調査結果と分析】

「人種・民族の違う人達が集まってできた」は、身元調査について「必要なことだ」31.7%が他の場合より高く、身元調査へのこだわりがうかがえる。同説は全体(総数)の 8.5%と少数であるが、身元調査へのこだわりが他の起源説を支持している者より強いので注意が必要である。

「中世の時代にケガレを清める人達への差別がもとでできた」は、身元調査への否定的な意識が70.7%（「必要ない」34.5%+「どちらかといえば必要ない」36.2%）、「生活の貧しい人たちが集まってできた」場合も70.0%（「必要ない」24.0%+「どちらかといえば必要ない」46.0%）で、ともに他の場合より高い。

【問22×問28-A 同和問題についての講演会や研修会への参加回数別 身元調査の必要性】



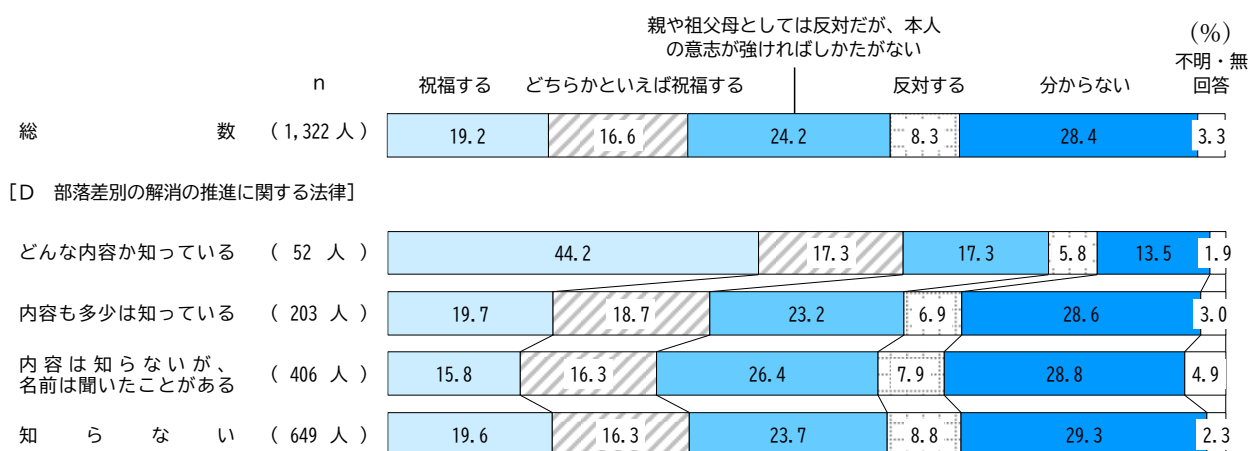
【調査結果と分析】

「3回以上」は「必要ない」が41.7%である。「1～2回」は25.2%、「0回」は17.1%である。参加回数が多いほど身元調査への否定的な意識が高く、逆に肯定的な意識は参加回数に反比例して減少しており、意識と参加回数の間に明確な相関関係がみられる。講演会や研修会の内容にもよるが、参加したことで人権尊重意識を自覚することにつながっているとも考えられる。

3 同和地区出身者との結婚（子や孫の場合）

【問 24×問 2-D 部落差別の解消の推進に関する法律の認知度別

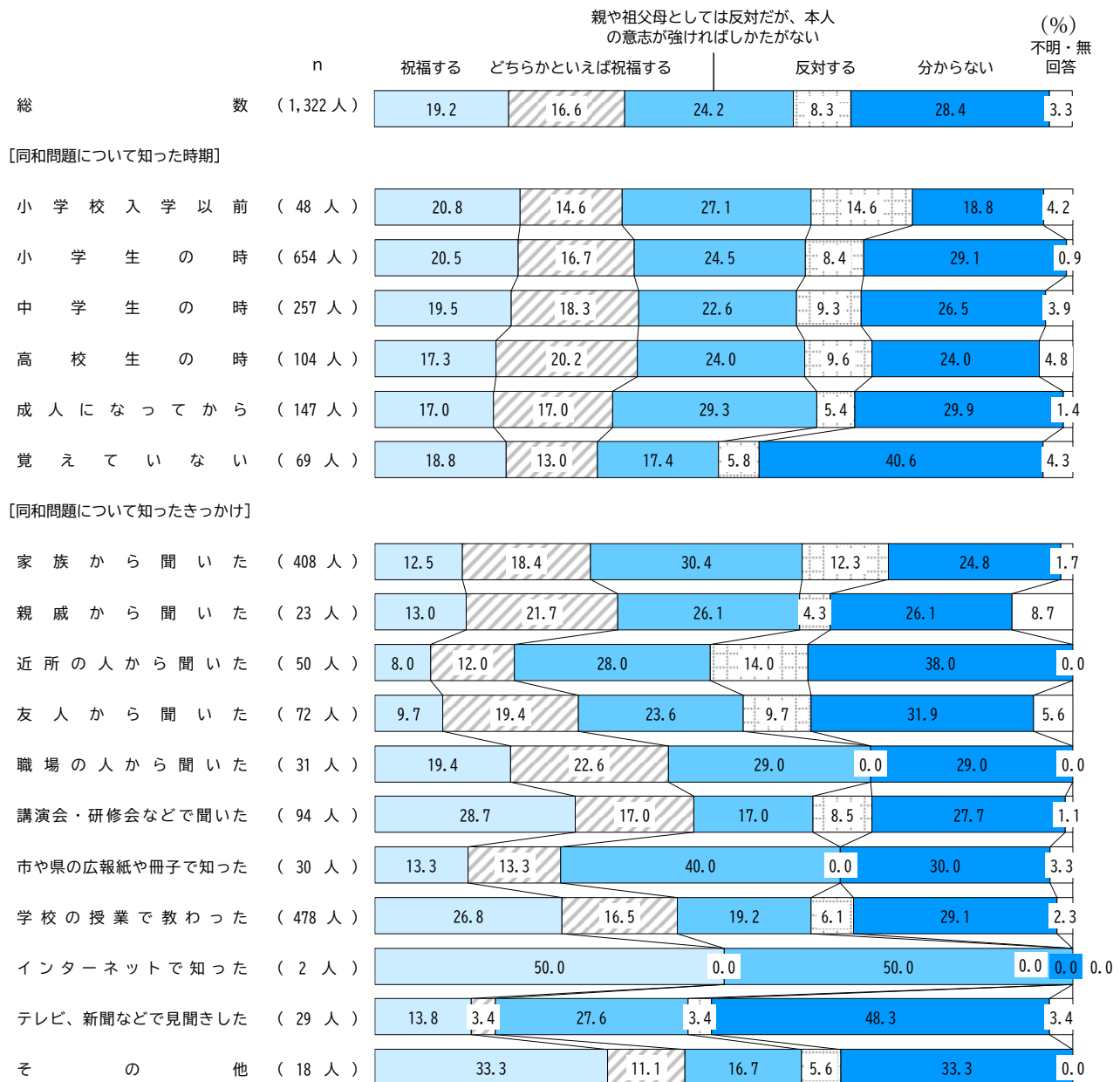
同和地区出身者との結婚（子や孫の場合）】



【調査結果と分析】

部落差別解消推進法について「どんな内容か知っている」は「祝福する」が44.2%、「内容も多少は知っている」は19.7%、「内容は知らないが、名前は聞いたことがある」は15.8%、「知らない」は19.6%である。「どんな内容か知っている」場合は祝福が4割を超えるが、他の場合はともに2割以下にとどまっている。

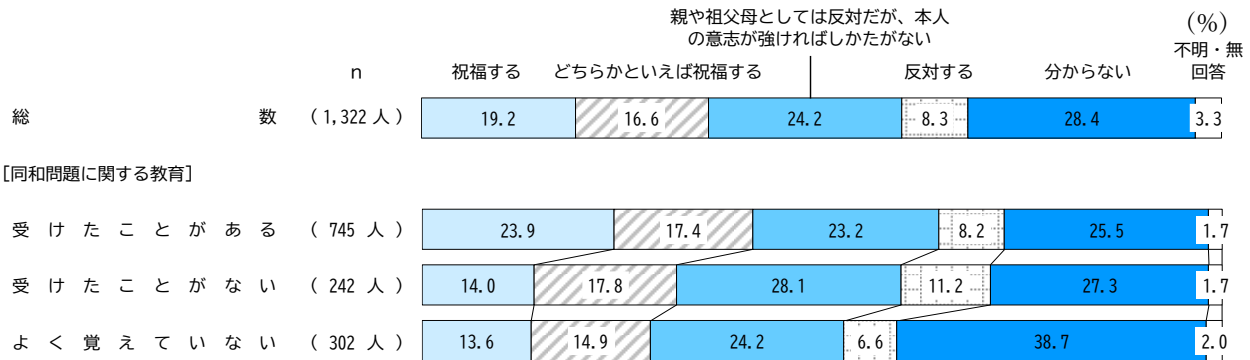
【問 24×問 17 同和問題の認知時期ときっかけ別
同和地区出身者との結婚（子や孫の場合）】



【調査結果と分析】

「小学校入学以前」は「祝福する」20.8%が他の場合より高い一方、「反対する」も14.6%で他の場合より高い。全体(総数)的には認知時期と子や孫の結婚について、有為な相関関係を見出しにくい。「近所の人から聞いた」は「祝福する」が8.0%、「友人から聞いた」場合は9.7%とともに総数の半分以上で他の場合より特に低い。「家族から聞いた」は「反対する」12.3%、「近所の人から聞いた」は14.0%とともに他の場合より高い。一方、「講演会・研修会などで聞いた」は「祝福する」28.7%、「学校の授業で教わった」は26.8%で、ともに他の場合より高い。「近所の人から聞いた」場合は子や孫の結婚について否定的な意識が他の場合より強いことから、差別意識を助長して偏見を刷り込んでいると思われる。

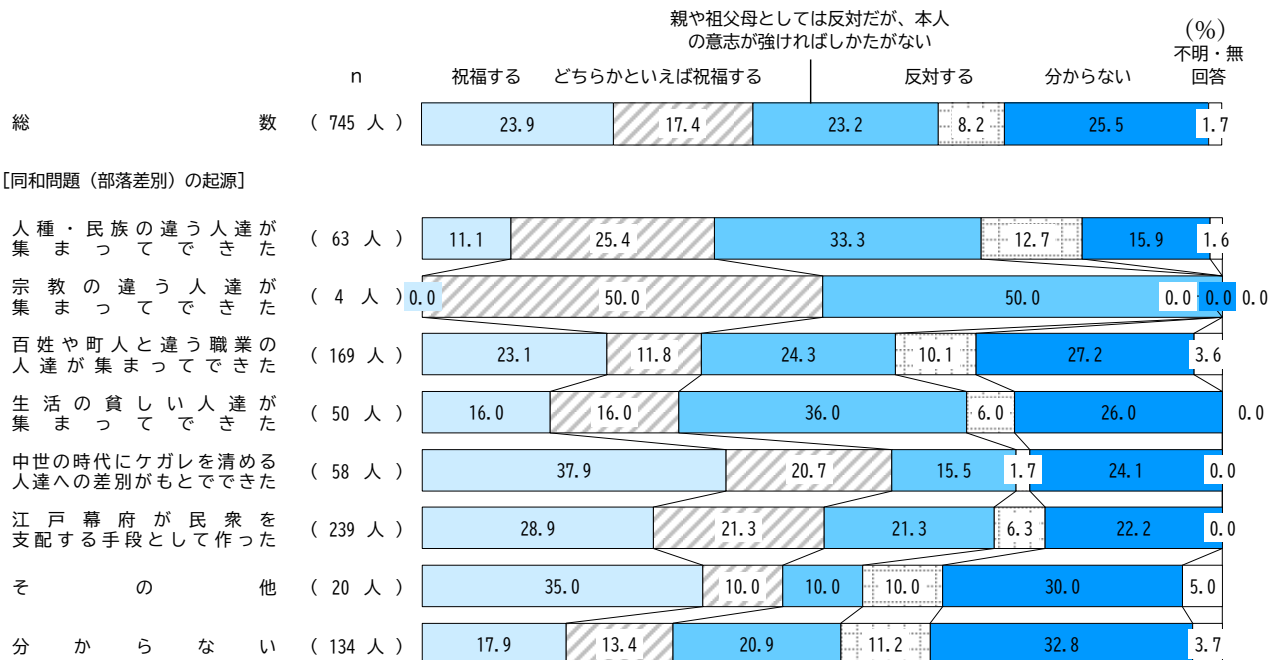
【問 24×問 20 同和問題に関する教育を受けた経験の有無別
同和地区出身者との結婚（子や孫の場合）】



【調査結果と分析】

「受けたことがある」は「祝福する」が 23.9%、「受けたことがない」は 14.0%で約 10 ポイントの差がある。「分からない」が全体(総数)では最も高いが、「受けたことがある」では 25.5%、「受けたことがない」でも 27.3%で近似している。「受けたことがある」でも「分からない」が「祝福する」を上回っていることに注意しなければならない。

【問 24×問 20-2 同和問題に関する教育の内容別 同和地区出身者との結婚(子や孫の場合)】

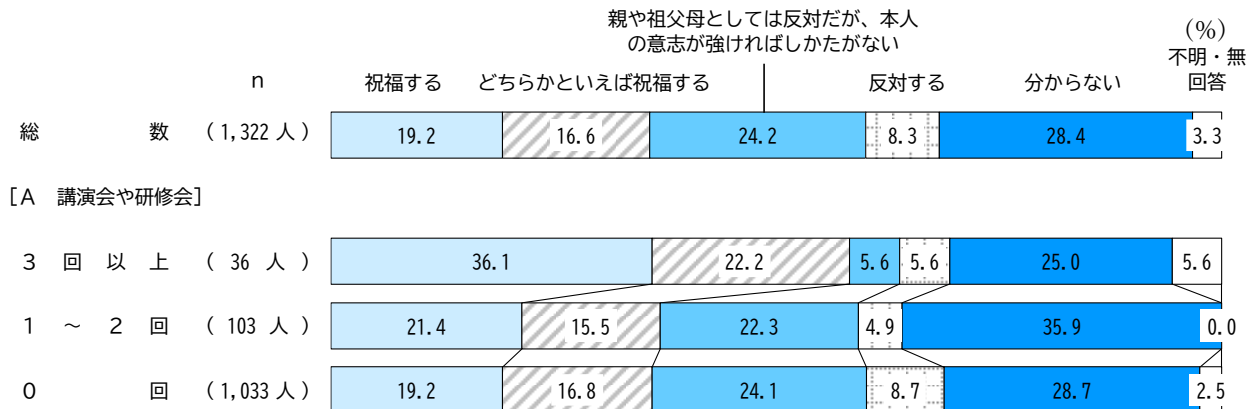


【調査結果と分析】

「人種・民族の違う人達が集まってできた」は、「祝福する」11.1%が低く、総数の半分以下であり、

「反対する」12.7%が他の場合より高く、結婚でのこだわりが強い。「中世の時代にケガレを清める人達への差別がもとでできた」は「祝福する」37.9%が他の場合より高い。結婚での否定的な意識が低く、ここでもキヨメ説の啓発効果がうかがえる。

【問 24×問 28-A 同和問題についての講演会や研修会への参加回数別
同和地区出身者との結婚（子や孫の場合）】



【調査結果と分析】

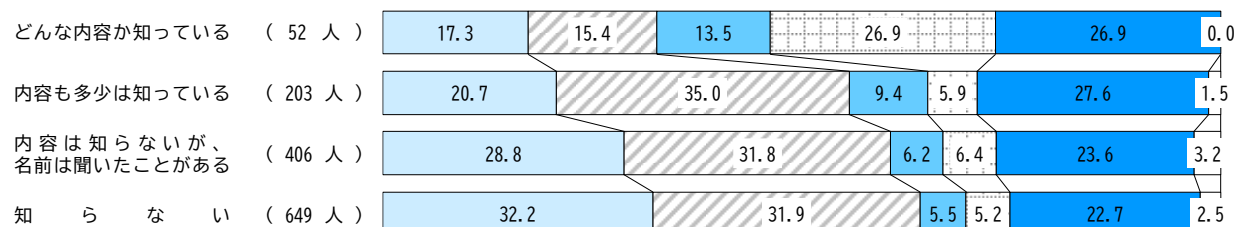
「3 回以上」は「祝福する」36.1%である。「1~2 回」は21.4%、「0 回」は19.2%である。参加回数が多いほど祝福する意識が高い。

4 同和地区周辺の土地購入

【問 25×問 2-D 部落差別の解消の推進に関する法律の認知度別 同和地区周辺の土地購入】



【D 部落差別の解消の推進に関する法律】



【調査結果と分析】

「どんな内容か知っている」は、同和地区を忌避しない意識が 40.4%（「避けない」＋「どちらかといえば避けたい」）で総数より 3 倍以上高い。一方、「内容も多少は知っている」は忌避しない意識が 15.3%、「内容は知らないが、名前は聞いたことがある」は 12.6%、「知らない」は 10.7%である。どの場合でも忌避する意識の方がしない意識より高いが、「どんな内容か知っている」だけは逆転しており土地の忌避意識には同法の認知状況による明確な差異が認められる。ただし、「内容も多少は知っている」も「内容は知らないが、名前は聞いた」も「知らない」も忌避意識に特に大きな差異は見られない。法律の内容を理解することにより自覚がはぐくまれていることがうかがえる。

【問 25×問 17 同和問題の認知時期ときっかけ別 同和地区周辺の土地購入】

	n	どちらかといえば避けたい					(%) 不明・無 回答
		避ける	どちらかといえば避ける	避けたい	分らない	分らない	
総 数 (1,322 人)		28.7	31.6	6.6	6.6	23.9	2.6

【同和問題について知った時期】

小 学 校 入 学 以 前 (48 人)	41.7	31.3	8.3	8.3	10.4	0.0
小 学 生 の 時 (654 人)	30.7	32.7	6.1	6.9	22.6	0.9
中 学 生 の 時 (257 人)	27.2	31.9	8.9	6.6	24.1	1.2
高 校 生 の 時 (104 人)	31.7	33.7	8.7	3.8	19.2	2.9
成 人 に な っ て か ら (147 人)	23.8	29.9	6.1	8.8	29.3	2.0
覚 え て い な い (69 人)	20.3	30.4	0.0	2.9	42.0	4.3

【同和問題について知ったきっかけ】

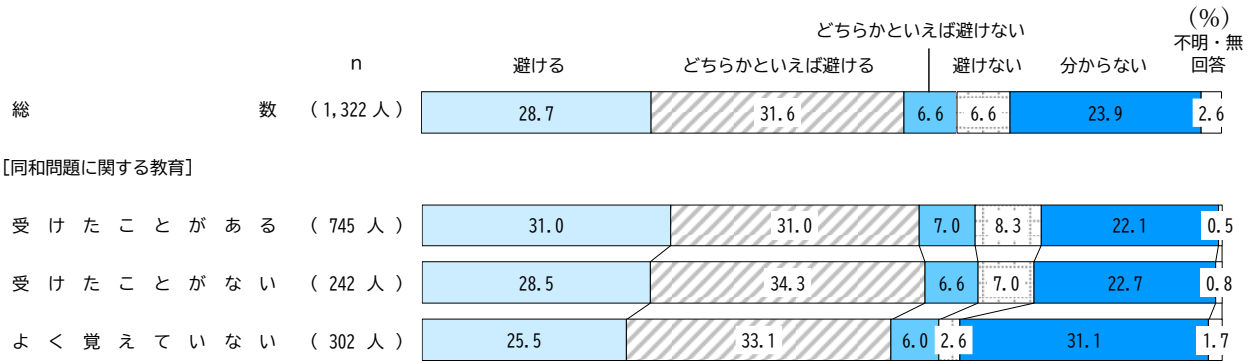
家 族 か ら 聞 い た (408 人)	36.8	33.8	6.1	3.2	19.6	0.5
親 戚 か ら 聞 い た (23 人)	30.4	39.1	0.0	0.0	30.4	0.0
近 所 の 人 か ら 聞 い た (50 人)	20.0	40.0	4.0	10.0	24.0	2.0
友 人 か ら 聞 い た (72 人)	30.6	36.1	8.3	4.2	13.9	6.9
職 場 の 人 か ら 聞 い た (31 人)	12.9	45.2	6.5	6.5	29.0	0.0
講 演 会 ・ 研 修 会 な ど で 聞 い た (94 人)	21.3	22.3	7.4	13.8	34.0	1.1
市 や 県 の 広 報 紙 や 冊 子 で 知 っ た (30 人)	10.0	43.3	13.3	3.3	26.7	3.3
学 校 の 授 業 で 教 わ っ た (478 人)	28.0	30.3	7.1	8.2	25.3	1.0
イ ン タ ー ネ ッ ト で 知 っ た (2 人)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
テ レ ビ ・ 新 聞 な ど で 見 聞 き し た (29 人)	31.0	24.1	0.0	3.4	37.9	3.4
そ の 他 (18 人)	27.8	11.1	0.0	16.7	44.4	0.0

【調査結果と分析】

「小学校入学以前」は「避ける」が41.7%で他の場合より特に高いのが特徴的であるが、忌避意識と認知時期の間の相関関係は見出しにくい。なぜなら、どの認知時期を比較しても、各項目の数値にほとんど差異がなく特徴が見いだせないからである。

どの認知経路でも忌避意識が過半数を占めている。特に「家族から聞いた」は忌避する意識が70.6%と最も高く、部落差別意識と忌避意識が刷り込まれていることがうかがえる。部落差別は地名と密接にかかわっているため地名と差別意識が一体化して忌避意識が形成されていると思われる。一方、「講演会・研修会などで聞いた」場合は忌避する意識が43.6%と他の場合より特に低い。講演会や研修会で初めて同和問題を知った人とは、主に東日本出身者などの社会人が考えられる。同和問題について刷り込みがない場合は忌避する意識も弱いと考えられる。

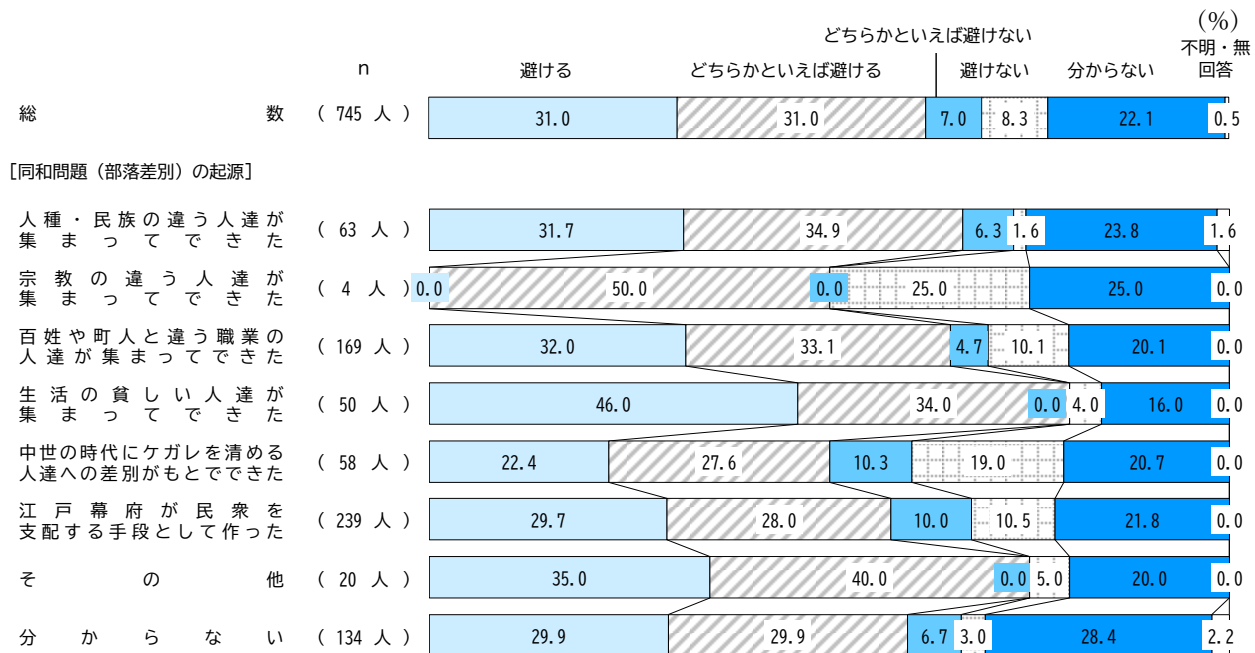
【問 25×問 20 同和問題に関する教育を受けた経験の有無別 同和地区周辺の土地購入】



【調査結果と分析】

「受けたことがある」は忌避する意識が 62.0%（「避ける」31.0%＋「どちらかといえば避ける」31.0%）、「受けたことがない」は 62.8%（「避ける」28.5%＋「どちらかといえば避ける」34.3%）でほとんど近似している。「分からない」もともにほぼ同じことから、同和教育の影響は特にうかがえない。同和教育の中では結婚や就職差別、近隣の付き合いでの細部などは取り上げられてきたが、土地差別問題は取り上げられていなかったことの反映である。

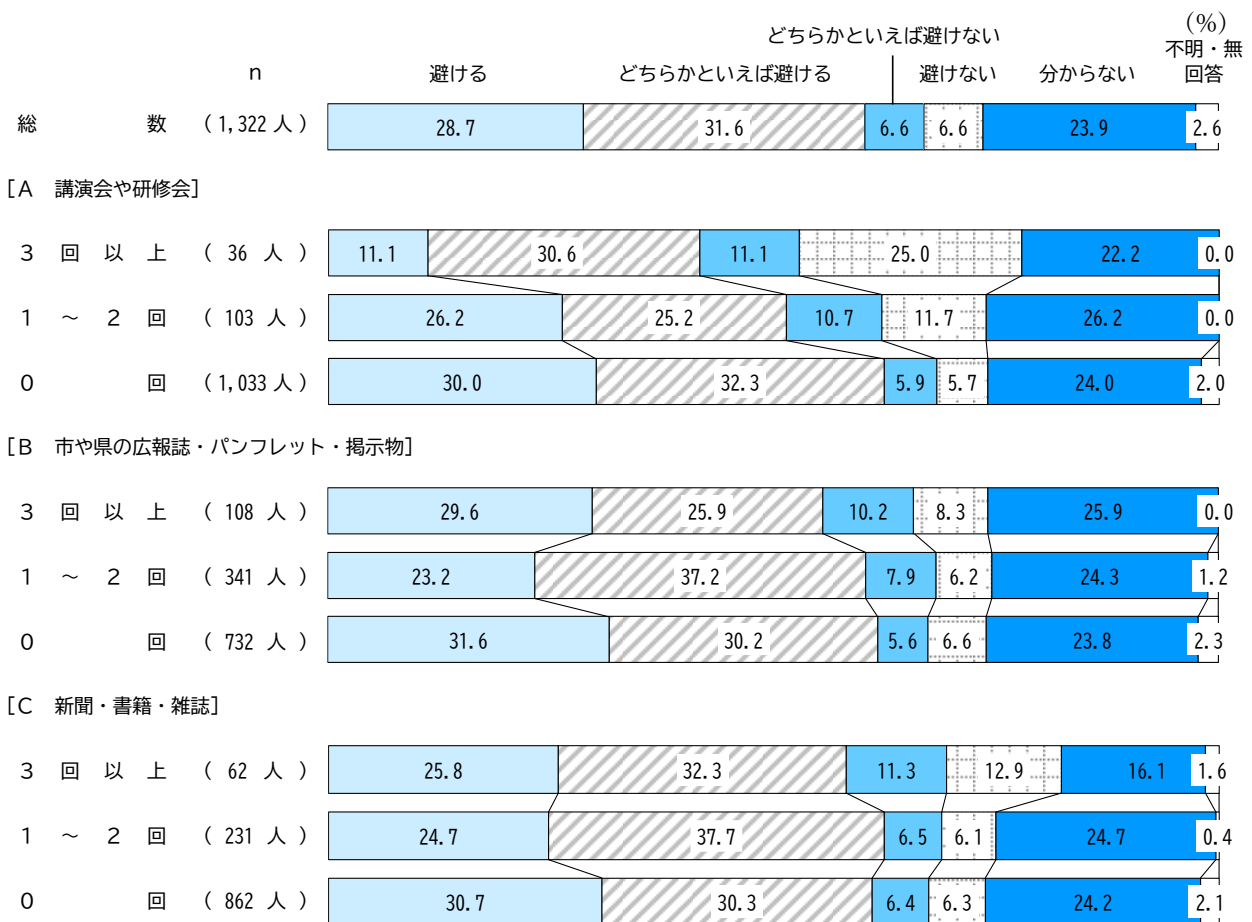
【問 25×問 20-2 同和問題に関する教育の内容別 同和地区周辺の土地購入】



【調査結果と分析】

「生活の貧しい人達が集まってできた」は、忌避する意識が 80.0%（「避ける」46.0%＋「どちらかといえば避ける」34.0%）で他の場合より特に高く、「分からない」は 16.0%しかない

【問 25×問 28-A 同和問題についての講演会や研修会への参加回数別
同和地区周辺の土地購入】



【調査結果と分析】

「3 回以上」は「避けない」25.0%である。「1~2 回」は11.7%、「0 回」は5.7%である。参加回数が多いほど忌避しない意識が高い。参加回数と忌避しない意識の間に相関関係がみられる。3 回以上の参加者でも忌避する意識が41.7%で忌避しない意識を上回っている。このことから、啓発効果は出ているが、まだまだ社会意識として根強いことを物語っており、今後の重点的な啓発課題として行政だけでなく関係業界とも連携し取り組んでいかなければならない。